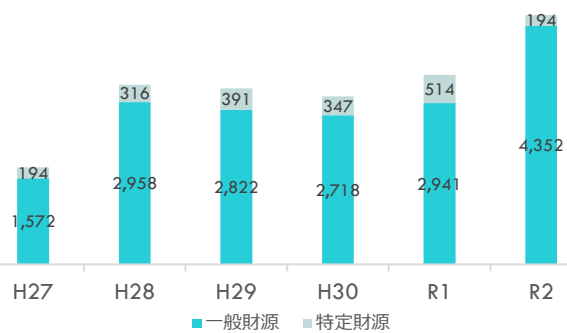
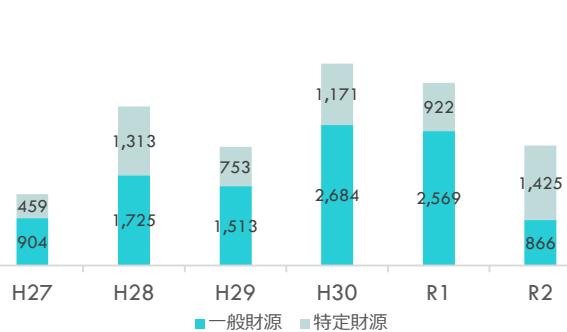


文化振興課

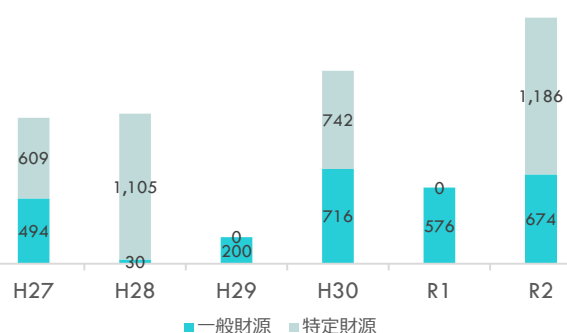
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海の家産物、山々の自然など、豊かな歴史、文化、自然があり、現代の生活の中で脈々と息づいています。

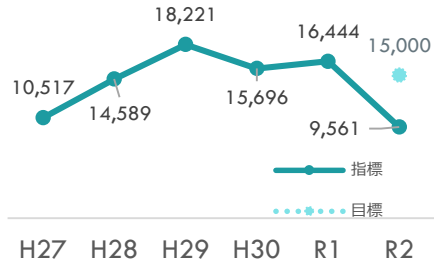
これらの地域文化資源を大切に守りながら後世につないでいくとともに、価値を十分に理解し、認定を受けた日本遺産を通じ、資源の魅力発信もしながらまちづくりに生かす必要があります。

また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。

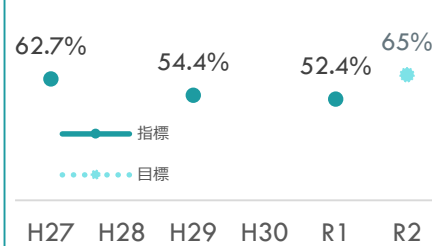
芸術・文化については、ゆとりとuringおいの実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠です。市民が身近なところで、幼い頃からいつでも、気軽に音楽や演劇、美術にふれるなど、豊かな自然・風土を生かしながら芸術・文化に親しむことができる機会や場所づくりを進めていく必要があります。

成果指標

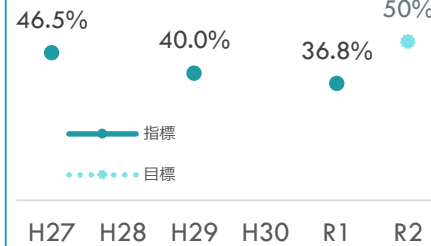
文化施設の年間入館者数(人)



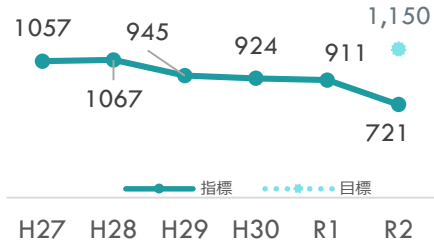
旧閑谷学校のことを来訪者に説明できる市民の割合【市民意識調査】(%)



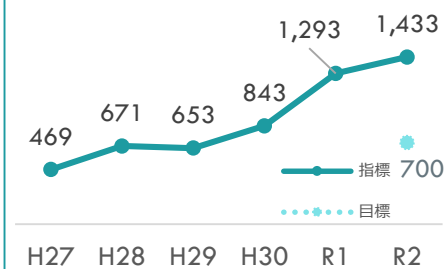
芸術・文化に接する機会があった市民の割合【市民意識調査】(%)



こども備前焼作品展出品者数(人)



備前市文学賞応募総数(点)



指標の説明・・・

旧閑谷学校は、本計画の将来像「教育のまち」の象徴です。まちづくり推進のため、市民の誰もが旧閑谷学校について知り、説明できるようになることが必要です。

文化施設で芸術・文化に接する機会をもったり、地域の伝統的な行事や祭りなどに参加することで、文化財への理解を深め、関心をもつとともに後世に伝えていくためにも、地域の人々の手で保存・継承していくことが必要です。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
閑谷学校を含めた日本遺産「教育遺産群」の認知度向上	旧閑谷学校世界遺産登録推進と日本遺産活用事業による地域活性化	日本遺産魅力発信として、閑谷学校創学350年記念事業や熊沢番山没後330年記念事業の実施	臨時的経費	927万円	775万円	前年まで行っていない閑谷学校や熊沢番山に関連する催し：全12回	コロナ禍のなか、旧閑谷学校の一日平均入場者数 前年比：68%
文化に親しむことができる機会や場所づくり	芸術・文化にふれる機会の提供	備前焼ミュージアムにおける企画展、ワークショップ等の開催	臨時的経費	2231万円	152万円	企画展開催日数：120日	コロナ禍のなか、企画展開催期間中の一日平均入館者数 前年比：52%
文化に親しむことができる機会や場所づくり	芸術・文化にふれる機会の提供	歴史民俗資料館における企画展、ワークショップ等の開催	経常的経費	598万円	2万円	企画展開催日数：118日	コロナ禍のなか、企画展開催期間中の一日平均入館者数 前年比：164%
文化に親しむことができる機会や場所づくり	芸術・文化にふれる機会の提供	加子浦歴史文化館における企画展、ワークショップ等の開催	経常的経費	663万円	2万円	企画展開催日数：133日	企画展開催期間中の一日平均入館者数 前年比：97%
文化に親しむことができる機会や場所づくり	夏・秋・冬の所蔵品展	吉永美術館 夏・秋・冬の所蔵品展の告知	—	0	—	SNS3回、広報誌3回、新聞1回、雑誌1回	入場者数 150%
文化に親しむことができる機会や場所づくり	子どもの芸術・文化活動の推進	岡山県こども備前焼作品展 備前市文学賞の実施	経常的経費 臨時的経費	86万円	—	SNS、新聞、広報誌等掲載回数 17回	こども備前焼作品展応募者数：前年比79% 文学賞応募点数：前年比111%

施策の評価

一次評価者	役職	文化振興課長	<p>令和2年度は旧閑谷学校創学350年を記念し多くの事業が開催できました。今後も旧閑谷学校につきましては世界遺産登録を目指すとともに、地域と連携した日本遺産の活用や魅力情報の発信を行っていきます。</p> <p>文化施設等では企画展や講座やワークショップなど、芸術・文化にふれる機会の提供を充実させていきます。</p> <p>令和3年度に作成する「文化財保存活用地域計画」に基づき、計画的な地域の文化資源の保存・活用を図っていきます。</p>
	氏名	畑下 昌代	
二次評価者	役職	教育部長	<p>令和2年度、コロナ禍にあつて、閑谷学校創学350年記念事業及び熊沢番山没後330年記念事業を開催し、本市の魅力発信に大きな貢献を果たすことができました。</p> <p>本施策では、市民の財産である地域の文化資源を大切に守りながら後世につなげるとともに、その魅力をまちづくりにもつなげていく必要がある。</p> <p>そのためにも、本年度作成の「備前市文化財保存活用地域計画」に基づき、各種取組を通じて文化財への理解を深めるとともに、計画的な文化資源の保存・活用が重要である。</p>
	氏名	石原 史章	